

遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整に係る中長期的な考え方(案)

個体数調整を実施している3地区では生息密度が低下し、周辺への流出も見られない。
遺産地域内のエゾシカを低密度化し、維持するためには、引き続き3地区での対策実施が効果的
(ルシャ地区は対策を検討)。

【知床岬】

- ・すでに植生回復が見られるまでに生息密度が減少。
- ・H24 シカ年度には目標としていた生息密度5頭/km²(1980年代初頭水準)を達成。
- ・H25 シカ年度には再び増加(7.1頭/km²)。

現状認識と短期的方針	中長期的方針
<ul style="list-style-type: none"> ● 高密度は解消したが、周辺からの流入などにより密度は増加。 ● 他地区での対策により流入減少の可能性。 ● 低コストで低密度を維持するための手法を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕切柵等の施設を有効に利用した低コスト手法により低密度維持。 ● コスト面も考慮した仕切柵の取り扱い方針を検討。

【ルサ 相泊地区】

- ・H25年度ヘリセンサスでは生息密度6.1頭/km²。
- ・センサス後の捕獲頭数を加味すると、密度操作実験期間(H24~26)の目標5頭/km²(ヘリセンサス値)を達成した見込み。

現状認識と短期的方針	中長期的方針
<ul style="list-style-type: none"> ● すでに第1段階目標を達成。 ● 越冬期のシカの分布は概ね道路沿いであり、流し猟式SSが有効(天候の影響あり)。 ● 気象条件により高標高域を利用する個体群があり、捕獲には別途手法の検討必要。 ● 当面は困いワナと流し猟式SSを継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>第2段階目標の設定。</u> (案)生息密度5頭/km²(実生息数) =3.3頭/km²(ヘリセンサス値) ● <u>低密度維持の手法としては流し猟式SSを中心とするが、他の手法も検討。</u> ● 「低コスト」の観点で、高標高域の個体群の捕獲は必須か、どのような手法が可能か。

ヘリセンサス見落とし率52%より算出 $5 \div 1.52 = 3.3$

【幌別 岩尾別地区】

- ・ H25 年度ヘリセンサスでは生息密度 9.2 頭/km²。
- ・ 密度操作実験期間の目標 12.3 頭/km²(2003 年水準 ヘリセンサス値)をすでに達成した可能性。
- ・ 幌別台地側はこれまで十分な捕獲圧をかけられていない。

現状認識と短期的方針	中長期的方針
<ul style="list-style-type: none">● すでに第 1 段階目標は達成。● 岩尾別台地は、道路沿いおよび知床五湖周辺は低密度化したが、海岸付近と河口付近は依然高密度。● 幌別台地は道路沿いを中心に高密度。● 囲いワナ・大型囲い柵・流し猟式 SS での捕獲を継続。	<ul style="list-style-type: none">● <u>第 2 段階目標の設定。</u> (案)生息密度 5 頭/km² (ヘリセンサス値)● <u>幌別台地では道路沿いの捕獲手法を検討・実施。</u>● 将来的に低コストで低密度維持するための手法検討。

【その他】

ルシャ地区

- ・ 依然高密度だが、3 年間で 63%減少(2011 2014)。
- ・ H26~28 シカ年度に季節移動、捕獲手法検討に関する調査を実施。
- ・ 必要性・可能性が示されれば、第 3 期計画期間 (H29~) から密度操作実験を実施予定。

遺産地域内の上記以外の地区

- ・ 生息密度の増加が見られないため、当面個体数調整等は検討しない。